



緑肥作物のIPMへの利用

緑肥作物には、土作りのために利用されるだけでなく、いろいろな使い方があります！

IPM とは？ (IPM: Integrated Pest Managementの略)

作物栽培の病虫害の防除に関し、利用可能なすべての防除技術を利用し、経済性を考慮しつつ、適切な手段を総合的に講じる防除手法のことです。

従来のように、農薬により病虫害を完全に撲滅したり、漫然と薬剤を定期散布したりするのではなく、農地を取り巻く環境状況と対象種の個体群動態を考慮しつつ、生物的防除、化学的防除、耕種的防除、物理的防除等を矛盾なく組み合わせることで、病虫害の密度を経済被害を生じるレベル以下に抑えようとするものです。

緑肥作物は、有機物を土壌に供給するとともに線虫抑制や病害抑制といった機能性や有益な天敵を誘引するといった品種が多く、IPMに大いに利用されています。



バンカープランツとして利用される代表的な品種 (草種) 例

緑肥ヘイオーツ (エンバク)



アンジェリア (ハゼリソウ)



R-007 (ライムギ)



短尺ソルゴ (ソルガム)

